

塗り替えてどんな作業？

塗り替え工程：屋根塗装（トタン編）

- Step 1 ケレン
- Step 2 錆止め処理
- Step 3 上塗り2回（中塗り、上塗り）

まだまだ多いトタン屋根、鉄部塗装とご説明が重なる部分も多いですが、ここではトタン屋根の塗り替えについてご説明させていただきます。

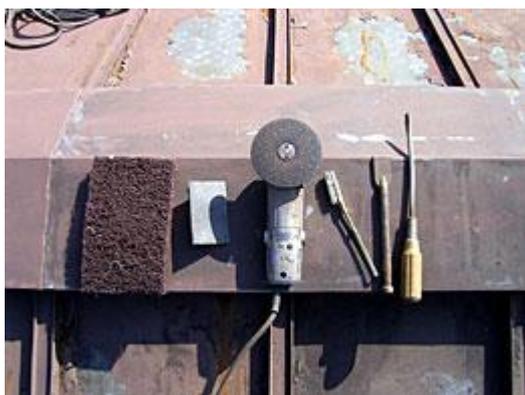
Step 1 ケレン



ワイヤーブラシケレン



左半分：既存状態 右半分：ワイヤーブラシケレン



ケレン工具

最も重要な下地処理で、劣化塗膜を除去したり、錆止め塗料の密着力を強めるため、既存塗膜の目荒らしをする作業です。

トタン屋根の場合、素材が鉄板であるため、高圧洗浄のような下地処理では不十分であることが多く、比較的劣化が少なく、錆などが発生していない場合でも、ワイヤーブラシなどの工具を使用しケレンすることが望ましいと言えます。

尚、ケレンと一言で言いますが、使用する工具により分類すると

- ワイヤーブラシケレン(手工具)
- サンダーケレン(電動工具)

またケレンの程度によって下記のように分類されます。

- 2種ケレン
電動工具を使用し、錆びている部分はもちろんのこと既存塗膜を全面除去
- 3種ケレン
電動工具を使用し、錆びている塗膜は除去、錆びてない既存塗膜は残す。
- 4種ケレン
全体的にサンドペーパーやワイヤーブラシなどの手工具をあてる程度

- ※1種ケレン
サンドブラストまたはショットブラストという機械を使用し、既存塗膜を全面除去し光沢のある表面にするというケレン方法もありますが、建築の現場塗装ではほとんど適応されません。

なぜ、このように細かく分類されるかと申しますと、どのような工具を使用しどの程度ケレンするかによって、施工品質が大きく異なり、それにとまなう費用が代わってくる為です。

トタン屋根の塗り替えに当たってもっとも肝要なことは、どのような塗料で塗り替えるかではなく、どの程度下地処理を行うかと言っても過言ではありません。

[このページのトップへ](#)

Step 2 錆止め処理



錆止め塗料塗布



錆止め塗料塗布完了

トタン屋根の場合の下塗りの工程が、錆止め塗料塗布となります。

錆止め塗料には下記等の種類があります。

- 一般錆止め塗料
- シアナミド鉛錆止め塗料
- 一液エポキシ樹脂錆止め塗料
- 二液エポキシ樹脂錆止め塗料

尚、施工費にも関わりますが、施工費(施工原価)の8割近くが施工に携わる人件費のため、コストパフォーマンスの観点から考慮しても、錆止め塗料には、もっとも錆止め効果の高い二液反応硬化型のエポキシ樹脂錆止め塗料がお勧めといえます。

但し、下地処理のケレンを、既存状態に応じて適切なランクの方法で行うことが大前提となります。

[このページのトップへ](#)

Step3 上塗り2回(中塗り、上塗り)



上塗り1回目



上塗り2回目



完成

錆止め塗料は、下地に対する密着力や錆の抑制効果は優れているものの、紫外線に対して非常に弱いため、それに対する保護のため上塗り塗料を塗ります。

上塗り塗料は通常2回塗ることによってその効果を発揮することができるので、上塗り1回目の工程を中塗りともいいます。

尚、外壁用の塗料は溶剤系から水性系への移行が進んでおりますが、外部鉄部に関しましては耐久性の観点から適しているとはいえません。

塗料の耐久性は塗料の主成分である「樹脂」により決定されます。アクリル樹脂、ウレタン樹脂、シリコン樹脂、フッ素樹脂の順に耐久性が高くなり、同じ樹脂であるならば、一液よりも二液型の塗料が耐久性が強いといえます。

